

全国協議会 ニュース

2021年11月1日発行 第351号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

日本骨髓バンク創立 30 周年 ～真に患者さんの役に立つ骨髓バンクをめざして～

日本に公的骨髓バンクが誕生して 30 周年を迎えます。お祝いを申し上げます。併せて骨髓バンクを支えてこられたすべての皆様に感謝いたします。今後も「真に患者さんの役に立つ骨髓バンク」のために共に歩んで行きましょう。

日本骨髓バンク創立 30 周年を 迎えるにあたって



公益財団法人
日本骨髓バンク
理事長

小寺 良尚

令和 3 (2021) 年 12 月に日本骨髓バンクは創立 30 周年を迎えます。白血病、再生不良性貧血等難治疾患を治療に導く骨髓移植・末梢血幹細胞移植に必要な HLA 適合ドナーが血縁内に見つからない方々のために、善意の非血縁ボランティアドナーを募り、その中から HLA が高度に適合した方たち

の骨髓・末梢血幹細胞を、それを必要とする患者さんに届ける仕組みである骨髓バンクがわが国で定着し発展し続けていることを、まずは皆様方とともに喜びたいと思います。そして創立以前に全国各地で公的骨髓バンク設立の必要性を訴えてこられた方々にこの機に改めて敬意を表するとともに、創立から今に至るまでドナー募集に応じられているボランティアドナーの方々並びに様々な形で骨髓バンクを支援して下さってきた貴会をはじめ関係団体の方々を中心に心よりお礼申し上げます。30 年の道のりは決して平坦ではありませんでしたが、困難に直面する度に国、地方自治体、関連諸団体の皆様、海外の友人たちとともにそれらを乗り越え、これまでに延べ 857,000 人のボランティ

アドナーと 61,000 人の登録患者さんとの間で 25,000 件の非血縁者間造血幹細胞移植を仲介してきました。その成績も今や同種造血幹細胞移植の基準とされる HLA 遺伝的適合同胞間移植のそれと比肩しうるものになっています。これらは国際的に見ても優れた実績ではありますが他方移植を望みながらも受けられなかった患者さんが多数おられたことも事実であります。30 周年を一つの節目として、日本骨髓バンクは“日本骨髓バンクドナーからの移植を望むすべての患者さんに最良のドナーからの造血幹細胞を最適な時期に届ける”ことを目指し、これからも努めたいと思います。“病における助け合い—Link of life”の機構であり、病める方々の“希望の星”である日本骨髓バンクに対し一層のご支援を願うとともに、貴会をはじめ関係団体の皆様と一丸になって、前進してまいる所存です。

末筆ではございますが、貴会の益々のご発展を祈念いたしまして日本骨髓バンク創立 30 周年のご挨拶といたします。

さんに寄り添ってまいりたいと思います。

これまでとこれからの 骨髓バンク

全国骨髓バンク推進連絡協議会
理事長 田中重勝

患者さんが自らの骨髓ドナーを求めて声をあげた時代や、民間の骨髓バンクによる非血縁者間移植が行われたことなど、これらの経験を生かし、財団法人骨髓移植推進財団（現在の日本骨髓バンク）が設立されて 30 年の大きな節目となりました。この間の白血病等治療の進歩は目覚ましく、医療関係の皆様、ドナーとして登録していただいた方々、さらには骨髓提供をして下さった方々、ボランティアとして骨髓バンクを広め、ドナー登録を推進し

て下さった方々など日本骨髓バンクに関わる多くの皆様のご努力のたまものと謝辞を申し上げたいと思います。

しかし、骨髓移植は医療がどれだけ進んでも骨髓液を提供して下さる方がいなければ始まりません。コロナ禍ではありますが、これからの患者さんを見据え、各地ボランティアでは、工夫しながら献血併行型登録会においてドナー登録を進めているところではあります。

日本骨髓バンクでは患者さんとドナーとのコーディネートを進めておられますので、全国骨髓バンク推進連絡協議会としては患者相談等の支援を行うとともに、各地団体を通しての普及啓発とドナー登録推進を行うなど、日本骨髓バンクとともに、今後とも患者

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

🔍 骨髓バンク NOW

《MONTHLY JMDP(10月15日発行)より抜粋》

■日本骨髓バンクの現状(2021年9月末現在)

	8月	9月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,618	2,449	535,370	871,061
患者登録者数	227	198	1,771	62,726
移植例数	100 (20)	94 (26)	—	25,921 (1,375)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■9月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/869人、献血併行型集団登録会/1,519人、集団登録会/1人、その他/60人

■9月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 2,813人/20代 83,982人/30代 136,518人
40代 222,005人/50代 90,052人

■9月の20歳未満の登録者 151人

■9月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,329件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

「日本骨髄バンク30周年記念大会」 Web配信を視聴して

10月2日(土)、東京霞が関のイノホールで日本骨髄バンクの30周年記念大会が開催されましたが、コロナ禍のため観客の入場を取り止めてのWeb(YouTube)配信となりました。昨年の骨髄バンク全国大会はコロナのため中止となったため、全国各地からの骨髄バンクボランティアや関係者は、残念ながら2年連続一堂に集まるとの参加ができませんでした。

昨年度、全国骨髄バンク推進連絡協議会と、私が会長を務める千葉骨髄バンク推進連絡会(千葉の会)は、設立30周年を迎えました。1990年に全国各地で骨髄バンクボランティアが立ち上がり、骨髄バンク設立運動を開始しました。千葉県内では各地で「骨髄バンクを知る集い」を開催し、また全国のボランティア仲間と骨髄バンク設立の100万人署名運動を行い、衆参両院議長に陳情したことを昨日のことに思い出します。そのかいがあって、骨髄移植推進財団(現日本骨髄バンク)が1991年12月に設立されました。設立後は千葉の会、全国のボランティアは、骨髄バンクの普及啓発、ドナー登録会等の支援活動を行ってきました。このようにボランティア活動は、日本骨髄バンクと表裏一体のため、日本骨髄バンクの設立30周年は、とても感慨深いものがあります。

さて、記念大会は13時に小寺良尚理事長の挨拶から始まりました。挨拶の間、Web画面に副理事長、理事、監事、事務局長、部長、チームリーダーが写真付きで紹介されました。理事、監事の方々はホームページの一覧表で名前は知っていましたが、どんなお顔なのか初めて分かりました。また事務局長、部長、チームリーダーに関しては、6月に大幅な人事異動があったため、役職、名前、お顔がやっと分かりました。

理事長挨拶の後、残念ながらお亡くなりになった患者さんへの「黙祷」があり、「来賓挨拶」、「祝電紹介」へと続き、その後加藤俊一副理事長から「事業報告」がありました。報告の「課

題への取り組み」では、「I. 若年ドナーのリクルート【特に10代~20代】①学校(高校、大学、専門学校等)でのドナー登録会の開催」が挙げられていましたが、千葉の会では献血併行型登録会の説明員で支援していますので、これからも協力していきたいと思っています。「II. コーディネート期間の短縮とドナープールの質向上①ドナー休暇制度の推進」については、千葉県内の関係経済団体を訪問して導入を働きかけてきましたが、これを継続するとともに、普及啓発に取り組んでいきたいと思っています。

この後、メインとなる「対談」が矢島学(ドナー登録者)日本テレビアナウンサーの司会でありました。対談者は、北別府学氏(元プロ野球投手、成人T細胞白血病罹患。次男から骨髄移植し寛解中。)と瀬古利彦氏(元マラソン選手。長男が悪性リンパ腫のため四男から末梢血幹細胞移植を受け延命したが、亡くなられた。)でした。両氏とも、本人またはお子さんが血液疾患を患い、ご家族から移植を受けられました。その過程でドナーを探したことから日本骨髄バンクとの関わりがあるそうです。骨髄移植等にはドナーが必要であり、このための社会全体の理解推進が必要であるとおっしゃっていました。



北別府学氏 瀬古利彦氏
写真は21.10.2「日本骨髄バンク30周年記念大会」Web配信より

対談後「感謝状贈呈」が4組、計6人にありました。この内一組のドージョーチャクリキ・ジャパン館長のノブハヤシさんとドージョーチャクリキ日本代表の甘井もとゆきさんには、全国協議会のクラウドファンディング実施の際サポーターとなっていたいただいており、この関係で9月23日(祝木)に新宿FACEで開催された格闘技試合に

招待していただきました。ノブハヤシさんは、K-1リングで戦ってききましたが、白血病に罹患し、血縁者間骨髄移植を受けリング復帰しました。このことから、日本骨髄バンク、全国協議会を支援してくれています。同氏は「人生そのものが戦い。負けないことが大切。」とおっしゃっています。

また有名な「春ちゃんは元気です」の著者松田のおおさんも表彰されました。娘の春ちゃんは4歳の時白血病になり2回移植をされましたが、今は元気になって大学生になっているとのことでした。

この後来年の開催地、広島からの招待メッセージがあり、広島県湯崎英彦知事、広島市松井一貫市長、広島国際大学骨髄バンクを支援する会「しずく」福岡春芽代表が挨拶されました。

最後に移植を受けて健康を取り戻した患者さん4人のメッセージがありました。

石井希さんは、急性骨髄性白血病で5年前の2016年に骨髄移植をされました。昨年結婚されて、現在ユースアンバサダーとして骨髄バンクの普及啓発活動を行っておられます。

中田萌々香さんは、再生不良性貧血で14歳の2014年に骨髄移植されました。現在元気に大学生活を送っておられるそうです。

宮島梨花さんは、若年性骨髄単球性白血病で1歳の2018年に骨髄移植を受けました。

池谷有紗さんは、急性リンパ性白血病で2013年に骨髄移植を受けました。2016年から骨髄バンク普及啓発のため講演活動をされているとのこと、現在30歳になれましたが、元気に仕事、趣味のイラスト、音楽を楽しんでいるそうです。

骨髄移植を受けて元気になられた皆さんを見ていると、骨髄バンクボランティア活動を30年超えて続けてきたことを良かったなあとつくづく思います。

来年こそコロナが収まり、3年振りの現地での大会「日本骨髄バンク全国大会2022 in 広島」が開催できることを、心から願っています。

(千葉骨髄バンク推進連絡会会長 梅田正造)

コロナ禍の非血縁者間骨髄移植への影響・ 日本骨髄バンクの対策について

2020年が明けてから世界中に新型コロナウイルスが蔓延し、日本でも多くの方が感染しました。医療の現場でも、多くの患者が病院に殺到し、医療崩壊が起きました。

骨髄移植におけるコロナ禍の影響について、10月2日(土)に行われた日本骨髄バンク30周年記念式典で、田村憲久厚生労働大臣(当時)が祝辞の中で、コロナ禍の影響により骨髄採取のための手術室確保が困難になる事例など対応に苦慮する場面が多くあったと述べられました。

そこで、具体的な状況について日本骨髄バンクにお尋ねし、以下のとおり回答がありました。

【前処置開始後、骨髄採取予定直前の中止について】

まずコロナ禍の影響による骨髄採取が中止となった事例が2020年度には3例ありました。

いずれもPCR検査の結果、採取当

日～3日程度前に陽性であることが判明して中止となりました。

【骨髄採取日程変更について】

骨髄採取の日程変更についても以下の事例がありました。

当初の採取予定日の2日前の時点で濃厚接触者の可能性があったため、骨髄採取を延期しました。その翌日に管轄の保健所より「濃厚接触者には当たらないでしょう」とのコメントがあったため、当初の予定日より1日遅れで骨髄採取を実施しました。

【日本骨髄バンクの対応】

骨髄採取の中止や日程変更を極力回避するために、日本骨髄バンクとしても、採取前にドナーの状況をチェックリストを用いて従来以上に詳細に収集したり、ドナーに対してコロナ対策を徹底していただくように声かけを強化したりするなど対策に取り組んできました。

また例外的に骨髄・末梢血幹細胞液

の凍結を認めるなど、可能な限り対策を立てて、医師に向けても頻繁にアナウンスをしてきました。

【ドナー登録に対する影響】

2020年度の新規登録者数は27,218人で前年度と比較すると20,437人減り、率にすると57%となっています。コロナ禍が蔓延し、外出自粛が求められる中で献血併行型登録会、集団登録会ともに実施回数が減少しました。献血・ドナー登録は決して「不要不急」ではないと告知しても、一度低下した登録数を回復させるのは並大抵のことではありませんでした。現場での苦勞は説明員の皆さん、ボランティアの皆さんが一番よく知っていると思います。

この原稿を書いている10月下旬の時点では、コロナの新規感染者は沈静化しているように見えますが、専門家は口をそろえて第6波が到来すると警告しています。命の現場で患者さんが窮地に陥ることのないように関係者が一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

三井化学「ちびっとワンコイン」でWeb講演

9月29日(水)、三井化学株式会社様からの依頼で、同社の「ちびっとワンコイン」会員と一般社員向けにWebで講演を行いました。同社では2007年11月から従業員有志の皆様への給与や賞与から、ご本人希望の金額を控除して、社会的な活動をしている団体への寄付基金を積み立て、同額を会社がマッチングして寄付を行う「ちびっとワンコイン」という制度を開始しました。会員有志で構成する「ちびっとワンコイン運営委員会」において重点支援活動分野を定めており、同委員会で寄付先団体の審査・決定を行っています。

実は私は元同社社員で、「ちびっとワンコイン」制度設立とともに会員になりワンコイン寄付を始め、2017年の退職時まで継続していました。運営委員も歴任しており、寄付先団体として全国骨髄バンク推進連絡協議会を推薦したのも私です。寄付先団体は会員が毎年推薦し、運営委員会が決定します。私は毎年全国協議会を推薦し、委

員会が寄付を認めた結果、全国協議会へは「ちびっとワンコイン」支援金が2008年から退職の2017年まで、2009年を除き毎年40万円が寄付されました。

同社を退職した2017年、全国協議会からの依頼で私は理事選挙に出て当選し、その後副理事長になりました。三井化学では私が退職後も全国協議会を寄付先団体として推薦くださる会員がおられたことから、2018年から2020年にかけても支援金を頂戴することになりました。私は支援金を推薦する立場から、今後はいただく立場に180度変わりましたが、全国協議会としてはこれまで総計12回・計480万円も支援金を頂戴しています。

この支援金は都度患者さん支援等のために有効に使用させていただいており、大変感謝しています。今回依頼を頂いた講演では、全国協議会がどのような活動をしている団体で「ちびっとワンコイン」の支援金を何に活用しているかを話して欲しいとのことでし

た。直近では下記の活動に支援金を使わせていただいたことを中心にお話をしました。

◆骨髄ドナー登録推進支援活動と普及啓発活動

◆患者・家族の支援活動

- ①病気情報ハンドブックの発行・配布(2019年度支援金を活用)
- ②白血病フリーダイヤルの運営(2017、2018年度支援金を活用)
- ③患者支援基金による経済的助成活動(2020年度支援金を活用)
- ④患者サロンの運営(2015年度支援金を活用)

◆ドナー支援活動

- ①パンフレットの作成・配布(2008年度支援金を活用)
- ②ドナーサポートダイヤルの運営
- ③ドナー休暇制度、ドナー助成制度の促進活動

講演後のQ&Aでも活発な質問を頂きました。

今後も全国協議会へ温かいご支援を頂けると幸いです。

(全国協議会副理事長 梅田正造)

支援者をお訪ねして (京都商工会議所様)

10月14日(木)に京都市中心部にある京都商工会議所様(会頭:塚本能交ワコールホールディングス会長)を訪問し、常務理事・事務局長稲垣繁博様とお会いしました。

同会議所は主に京都市内に事業所を置く企業で構成され、会員数は約1万2千社。企業の経営支援のほか、京都

の魅力・ブランド価値を高める活動として京都観光文化検定を主催されるなど、京都経済界をリードしています。

同会議所は、当協議会の特別賛助会員として長年ご寄付を頂戴しており、この日はそのお礼と当協議会の活動の説明をさせていただきました。

多くの企業で構成されている会議所なので、ドナー登録へのご理解とご協力を各企業へ働き掛けていただきたく、ドナー休暇制度の仕組みを説明さ

せていただいたところ大変ご興味を持ってくださいましたので、後日改めて詳しい資料をお送りすることになりました。

最後に、今後も引き続きご支援ご協力をいただけるようお願いしました。

稲垣様にはお忙しい中ご対応いただき、意義深い訪問になりましたことを改めて感謝いたします。

(全国協議会副理事長 山村詔一郎)

医療相談室の現場訪問 (札幌北榆病院)



(左から:高泉様、山田様、山崎室長)

全国協議会では3つの患者支援基金を運営しています。患者さんやご家族がご自身で申請されるケースもありますが、大部分が各医療機関の医療相談室の方のご尽力により申請がなされています。医療機関には医師や看護師など、直接治療に携わる方ばかりではなく、経済的な問題を含め患者さんの困りごとを解決するために活動される方々もいらっしゃいます。

10月15日(金)、札幌北榆病院医療連携室にお邪魔し、山崎奈美恵移植医療支援室長、医療ソーシャルワーカーの高泉一生様、山田智媛様の3名

にご挨拶させていただきました。最寄りの白石駅から地下鉄に乗ると、札幌の中心部大通まで10分足らずという好立地にあります。

同院の小児思春期科と血液内科は日本造血・免疫細胞療法学会の認定診療科であり、日本国内でも屈指の移植・採取件数を誇る実績があります。山崎室長は認定HCTC(造血細胞移植コーディネーター)でもあり、ハンドブック「白血病と言われたら」に無償でご執筆いただくなど、全国協議会の活動にご協力いただいています。また、医療連携室の医療ソーシャルワーカーの皆様においては、全国協議会の運営する「佐藤さち子記念造血細胞移植患者支援基金」や「志村大輔基金」などと患者さんをつないで下さり、多くの患者さんの支援を手掛けられています。今回の面談でも患者さん支援、ドナーさんの活動支援について熱く語ってくださいました。

今後は可能な限り関係医療機関の方々との連携を取らせていただき、患者さん支援の輪を広げていくことができたいと思っています。

(全国協議会事務局長 柴山洋久)

秋のピアノ三重奏コンサートは オンライン開催! YouTubeで生配信!



コンサート会場での演奏の様子

「骨髄バンクチャリティ
ピアノ三重奏 ライブ配信」

日時:2021年11月19日(金)
19時00分~19時50分
プログラム:ベートーヴェン
「大公トリオ」
出演:三戸素子(ヴァイオリン)
小澤洋介(チェロ)
高田匡隆(ピアノ)

どなたでも視聴できます。
見逃した方も、配信以降いつでもYouTubeにてご覧いただけます。

https://www.k-konzerthaus.com/mbt_cc2011



東京雪祭いよいよ開催

11月13日(土)~14日(日)代々木公園(東京渋谷区)で「東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD 2021」が開催されます。スノーボード・音楽ライブパフォーマンスを通じて骨髄バンクの大切さを多くの若者に楽しみながら知ってもらうイベントです。是非お越しください!



心からのご寄付に感謝申し上げます ●9月21日~10月20日(敬称略)

●一般	●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	磯屋食堂	現金	8,793円
菊水酒造株式会社	梅原 保	鎌倉屋	現金	4,234円
現金 500,000円	らいらっくの会	あんがいおまる一座	現金	2,873円
金井 誠一	現金 30,000円	●つながる募金	現金	15,800円
現金 30,000円	●募金箱	鈴木 至子	現金	10,000円
現金 10,000円	株式会社クスリのアオキ	設計工房 夢家	現金	3,000円
藤原 光枝	株式会社クスリのアオキ	すし善	現金	6,597円
現金 10,000円	株式会社クスリのアオキ	●キモチと。	現金	14,757円
現金 1,000円	株式会社北越ケーズ			
塩谷 泰人	現金 2,488,390円			
現金 1,000円	株式会社マルト商事			
福原 卓也	現金 174,523円			
現金 3,000円	株式会社久美堂			
乾野 海人	現金 84,196円			
現金 1,000円	現金 7,363円			
イノウエ アキ				
現金 10,000円				
イトウ タクマ				
現金 5,000円				
匿名				
現金 30,000円				

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会